



エコノミスト・ストラテジストレポート

情報提供資料  
2021年4月9日

## 新しい時代の新しい言葉② 道徳経済合一説とSDGs

運用戦略部 チーフ・エコノミスト/チーフ・ストラテジスト 黒瀬浩一

NHKの大河ドラマで渋沢栄一を主人公とする「晴天を衝け」が始まりました。一万円札の肖像画は2024年には福沢諭吉から渋沢栄一に代わります。資本主義が格差を助長し、ITが社会の分断を招くなど時代の危機の症状が露になる中、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一の思想を見直す動きが広がっています。渋沢栄一は開国後の日本の近代資本主義の黎明期に、銀行、紡績会社、建設会社、保険会社、製紙会社、電力会社、ガス会社、鉄鋼会社、ビール会社、化学会社、セメント会社、鉄道会社、運送会社、倉庫会社、ホテル、出版社、大学、証券取引所、商工会議所など多くの事業を興しました。もうここまでくれば近代社会、そして、資本主義の全てと言える程の壮観です。渋沢栄一の思想は、道徳と経済は両立することが可能であるとする「道徳経済合一説」に集約されています。尚、りそなグループにも渋沢栄一の事業は引き継がれています。

渋沢栄一の子孫である渋沢健氏はインターネットメディアのハフポストのインタビューで「渋沢は『論語と算盤』の中で、『正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができない』と指摘しています。これは、まさにSDGsの「持続可能性(サステナビリティ)」の思想です」と答えています(注1)。ここでいう「正しい道理の富」とは、一言でいうと、格差、働き甲斐や幸福感の欠如、差別、地球温暖化、海洋汚染、食物の大量廃棄、など様々なひずみが噴出した資本主義を是正しようとする世界的な時代の要請です。渋沢健氏は、正しい道理の富を生むための社会変革、その具体的手段がSDGsだと指摘しているのだと思います。

「SDGs」は、2015年の国連総会で採択された2030年までに達成する努力義務が課された目標です。「持続可能な開発目標」と訳され、「誰一人取り残さない」を基本理念とし、地球環境、基本的人権、経済成長、社会正義など崇高な人類の理想を実現する試みです。具体的には、17の大項目の目標と169の個別具体的なターゲット(数値目標)から成ります。17の目標は、「すべての人に健康と福祉を」、「働き甲斐も経済成長も」、「つくる責任つかう責任」、「気候変動に具体的な対策を」、「平和と公正をすべての人に」などです。このSDGsが国内政策として意味を持つのは、内閣総理大臣がサインした、つまり、国際条約として機能することです。

近年、古くからの積年の問題が、ある時期を境に急に解決に向けて動き出す例が増えています。たとえば、2月の節分後は、恵方巻の大量廃棄が積年の社会問題となっていました。プラスチック製のレジ袋も、海洋汚染の原因だとして長年問題視されていました。近年になって、問題視されるだけで放置されるのではなく、問題解決に向けて具体的な措置を行政も企業も直ぐに取りようになりました。2021年は恵方巻の大量廃棄は大きな社会問題にはなっていません。レジ袋は積年の課題だった有料化による削減が一気に実現しました。問題解決が実現した背景は、これらがSDGsの169のターゲット(数値目標)に定められているからなのです。

改めて身の回りを見渡すと、このような変化がたくさん起きています。その変化を象徴するのが若者の意識や行動の変化です。特に海外では、若者によるデモなど一大ムーブメントになっています。



SDGsへの賛同は、政府や企業だけではなく個人でも可能です。地球環境の保護や災害への対応など、既に多くの日本人は実践していると思います。賛同の象徴が17の目標を模して17色からできている写真(筆者撮影)のようなバッジです。国連で販売されており、最近アマゾンやヤフーオークションなどでも廉価で販売されています。国連のHP(英語)には、賛同する個人が署名するサイトもあり、積極的な参加が呼びかけられています。

以上

(注1) [https://www.huffingtonpost.jp/entry/story\\_jp\\_604873fdc5b6cf72d092d596?ncid=news1tjphpmgnews](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_604873fdc5b6cf72d092d596?ncid=news1tjphpmgnews)

■本資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■本資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します最新の「投資信託説明書(交付目録見書)」および一体としてお渡す「目録見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。